



横浜市立 瀬谷さくら小学校

学校運営協議会だより

平成27年 3月18日

平成26年度・第3号

共に学び、共に創る地域の学校『瀬谷さくら小学校』

～みんなの力で守り育てよう、瀬谷さくら小学校・さくらの子～

平成26年度の活動を振り返って

瀬谷さくら小学校 学校運営協議会 会長 網代 宗四郎

地域の皆様や保護者、教職員の皆様には、学校運営協議会の活動に温かいご理解、ご協力をいただきまして誠にありがとうございます。また、ご指導、ご支援くださいました関係機関の皆様から感謝申し上げます。

平成26年度も、学校運営協議会活動のテーマを念頭におき、一年間活動してまいりました。とりわけ、サブテーマ「みんなの力で守り育てよう、瀬谷さくら小学校・さくらの子」にございますように、保護者、地域のみなさんが、瀬谷さくら小学校の発展を願って、学校運営に温かいご理解とご支援をいただきました。また、児童の皆さんが安全に伸び伸びと勉強やスポーツが出来るように、さらに、様々な体験を行ったり、多くの方々とのふれあいの機会づくりに努力してくださいました。加えて、武藤校長先生はじめ諸先生方が、一生懸命学校運営に当たられました。お陰様で、学校は創立5周年にふさわしい確かな歴史を刻まれたと思います。そして、児童の皆さんはお一人おひとりが立派に成長され、とても頼もしくなりました。

先日、川崎市で中学1年生の上村遼太さんが、3名の少年に尊い命を奪われるという、とても悲しく、残念な事件が発生しました。上村さんがSOSを何回か発信していたのに救う事ができなかった事に付いて、第3回運営協議会で話し合っていました。大人が、しっかりやるべき事をやっていれば、上村さんを救う事ができたのではないかと。



私たちは、それぞれの立場で、さらに、皆さんで力を合わせて、児童の皆さんを犯罪や交通事故、災害、いじめ、児童虐待から守る為の取組を今まで以上に行う事を誓い合い、児童の皆さんには、多くの皆さんの見守りや教え、体験、諸訓練などから、自らの尊い命を守る事の出来る勇気と力を備えていただきたいと思います。

結びに、卒業生の皆さんに、「ご卒業おめでとうございます。元気に中学校生活を送ってください」とお祝いを申し上げます。

咲き誇る桜の花に寄せて

瀬谷さくら小学校 学校運営協議会 副会長 馬場 勝己

間もなくさくらの花が咲き誇る季節となります。「光陰矢のごとし」と申しますが、今更ながらに、時の経つのは早いものだと感じる今日のごろです。

この4月、瀬谷さくら小学校の誕生から満5年を迎えます。2年生で本校に入学した児童たちは、3月の卒業式を経て中学1年生に進級します。幼い1年生から少しばかり成長して、2年生となって迎えた新しい学校生活は、希望と不安が混在した状況であったと思います。今では立派に成長し、下級生を思いやる頼もしい存在となっています。

ここまで成長した過程には、校長先生を始め、全ての先生方の児童に向けた愛情と叱咤激励があったからこそと思います。加えてPTAや地域の方々のご支援ご協力の後押しがあって、見事コラボのさくらの花が咲いたのだと思います。



繰り返して恐縮ですが、「子どもは国の宝・地域の宝」です。今後もこのことを肝に命じて活動して参ります。来年も見事なさくらの花を咲かせましょう。

児童の成長した姿に5年間の重みを感じる

瀬谷さくら小学校 校長 武藤 牧子

今年度、瀬谷さくら小学校は開校5周年という節目の年となりました。11月に航空写真も撮りました。そして、この3月20日は、下瀬谷小学校、日向山小学校に入学した最後の児童が瀬谷さくら小学校を卒業します。6年前、2つの小学校に通っていた児童が、一つになって卒業を迎えます。

児童の成長した姿に改めてこの5年間の重みを感じます。児童にとっても保護者にとっても期待と不安の日々の中で、地域と家庭と学校が協働して新しい学校づくりを進めてこられたことに敬服します。



瀬谷さくら小学校では、毎日、保護者や地域の方とお会いします。朝の登校、本の読み聞か

せ、算数サポート、算数補充、教育活動への支援、下校時の見守りと常に児童の安全、安心のため、教育活動の充実のために大勢の方が見守り、励ましてくださっていること、本当にありがたいことだと思います。その活動を推進しているのが学校運営協議会であることも確かなことです。年5回の協議会では、学校の教育活動の充実に向けて何ができるのか、地域と児童をつなげるために何ができるか、家庭との連携はどのように図ることができるか等、児童の健全育成のためにできる事を実践化する協議が行われています。学校の教育活動にご理解、ご支援いただくことだけでなく、ご意見もいただき、学校の取組について常に振り返り、児童の育成に役立つ取り組みに改善することのご示唆もいただくことができました。改めて学校運営協議会のテーマである『共に学び、共に創る地域の学校「瀬谷さくら小学校」～みんなの力で守り育てよう瀬谷さくら小学校・さくらの子』を実感します。



これからも、学校としてできること、やらねばならないことに教職員一同心を一つにして取り組んでまいりますので、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

マラソン大会でも大活躍

1月18日（日）に瀬谷マラソン大会、1月31日（土）にはズーラシア駅伝大会が開催され、大勢の子どもたちや先生方が参加しました。学援隊も、のぼりを作って、応援に駆けつけました。

マラソン大会では、小学生男子の部で5年生の石川さんが1位、女子の部で6年生の仙田さんが2位、五十嵐さんが4位に入賞しました。ズーラシア駅伝大会では、瀬谷さくら小学校が総合3位に入賞しました。日頃の練習の賜物で、健康優良校の面目躍如といったところです。

また、2月28日（土）には、学校周辺の約1.9Kmのコースを使って、初めての校内マラソン大会「さくらマラソン2015」が開催されました。学援隊も要所に立って応援しました。これか

ら先の名選手を生み出す有力な大会に育てていきたいものです。（西村）



3年間ありがとうございました

瀬谷さくら小学校PTA会長 太田 和男

梅の花がほころび、また新たな春を迎えようとしている今日この頃、皆さまには、平素より子どもたちの成長をお見守り頂いておりますことを、PTAを代表いたしまして心より御礼申し上げます。

平成26年度の活動は、子どもたちに楽しい学校生活を送ってもらうという意思は変わらないものの、私にとって深い思いを伴うものでした。と申しますのも、今年度をもってPTA会長を退任することになったからでございます。

元氣よく挨拶をしてくれる大きな声も、毎年恒例の学校行事で見せてくれるたくさんの明るい笑顔も、一つの事に皆で取り組む真剣な横顔も、来年度からはあまり見られなくなるのかと思うととてもさびしくて、だからこそ、残り少ない時間で子どもたちのためにできることをやろうと、強い思いをもって活動してまいりました。

すでに新しい会長さんが決まり、残すところも

わずかとなりました。この活動を通じ、私は本当にたくさんの方を学び、本当にたくさんの方に支えられてきました。同じくPTAで活躍する方々をはじめ、地域の皆様、教職員の皆様、そして子どもたちにも、たくさんの方を教えてもらい、有意義な時間をもらいました。本当に感謝しております。本当にお世話になりました。

常々思っていることではございますが、子どもたちが安心安全な学校生活を送れますのも、そして、私がPTA会長としての任を全うすることができましたのも、そばで支えてくださる皆様がいてくださったからこそでございます。どうかこれからも、子どもたちの楽しい学校生活をお見守りいただき、子どもたちのための活動を展開して頂きますよう、何卒お願い申し上げます。3年間、本当にありがとうございました。



地域の皆様の温かいまなざしの中で すくすく育つ「さくらの子」

瀬谷さくら小学校 副校長 松田 恵子

皆様方のご理解とご協力を得ながら、瀬谷さくら小学校の今年度の様々な教育活動も無事に終わることができました。今までどうもありがとうございました。

さて、文字どおり「地域とともに歩む学校」として、登下校時の見守りに始まり、青パト運営のためのアルミ缶回収、「さくらの子応援隊」の活動など、今年度も様々な活動に積極的に取り組んできました。とりわけ「さくらの子応援隊」については、先日東京で行われた「青パトフォーラム」の席上で、学援隊の方々による算数の個別指導補助の様子等を報告させていただき、参観者からは多くの問合せをいただくなど反響も大きく好評でした。

さらには、「さくらマラソン」などにおいて、交通安全のために自主的に集まりいただいた

り、「のぼり」の作成や応援団を組織したりしていただくことによって、子どもたちの活動意欲を大いに高めていただきました。

このように、子どもたちのことを第一にお考えになる、まさに「まちの大人がまちの子どもを育てる」といった姿勢には本当に頭が下がります。そして、この愛情を背中であっぴりと感じつつ健やかに育つさくらの子たちは、やがてその恩返しをし、脈々とその意思を受け継いでいくのでしょうか。

すばらしい伝承、すばらしい伝統、そんな1シーンに立ち会うことができた証人の一人として、改めて感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



平成26年度 学校評価報告書

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな学力	市学力学習状況調査の分析から各学年における課題を明確にし、課題に応じた戦略を立て、実践していきます。	市学力学習状況調査の分析を各学年行い、重点的に指導すべき項目を挙げ、指導してきた。地域の教育力も活用し基礎力向上につなげた。	A B C D
2 豊かな心	あいさつ運動、ふわふわ言葉の推奨、命の学習を通して、思いやりの心や自他を大切にすることを養っていきます。	児童会の活動を通して、進んであいさつをする子、思いやりをもって行動する子を育ててきた。いのちの学習も充実させ、自他を大切にすることを養った。	A B C D
3 健やかな体	特別陸上クラブ、いきいきキッズタイムの活動を通して、規則正しい生活を身につけ、自ら進んで体力向上に取り組む子を育てます。	特別陸上クラブや中休みの取り組みにおいて、自ら体力をつけようとする子を育ててきた。家庭にも協力してもらい規則正しい生活が身についた。	A B C D
4 児童・生徒指導	たてわり活動、ペア活動を通して、異学年間交流を進め、思いやりの心を育てます。また、児童への聞き取りを迅速に行い、いじめに対して早期解決を図ります。	学年研や職員会議での情報交換を密にし、全職員を上げて児童理解に努めてきた。たてわり活動を通して、異学年間での児童同士のふれあいの機会を多く設けた。	A B C D
5 研究・研修	生活科・理科において授業研究を行い、外部講師を招いて授業力向上を図ります。校内実技研修を通して職員のスキルアップを図ります。	外部講師を招いての重点研究、若手中心のメンター授業研を通し、表現力を身に付けるための言語活動の在り方について学び、授業力向上に努めた。	A B C D
6 地域連携	学校運営協議会を中心に、地域と連携した学校づくりを進めます。算数サポートやクラブ支援など地域参画型の児童支援を進めます。	さくらの子応援隊として算数サポート、クラブ支援、登下校時の見守り等、地域参画型の児童支援が充実してきた。学校運営協議会を中心とした地域との連携をさらに進めていく。	A B C D
7 人材育成 組織運営	メンターチーム「チームさくら」では、主体的な授業研究を行い、授業力向上を図ります。また、不祥事防止研修を企画運営することにより、全職員の意識の向上に努めます。 学校創造委員会、教務会と4部会を有機的につなぎ、部会長を中心とした迅速な組織運営を進めていきます。	若手が進んで授業研究会に取り組み、授業公開を通して授業力の向上を図った。学年内での話し合いを密にし、ベテランから若手へと実践を通じた指導ができています。 学校創造委員会、4部会を中心として組織的な学校運営に取り組んできた。今後さらに各部会を有機的につなぎ、会議等の精選を行っていく。	A B C D
小中一貫教育 推進ブロック内 相互評価結果	<ul style="list-style-type: none"> 市学力学習状況調査の分析が行われ、各学年の傾向やその課題に戦略的に取り組んでいた。 地域の教育力を生かし、学力向上、体験的活動、児童支援の取り組みが充実し、成果を上げていた。 あいさつ運動の定着が図られ、子どもたちがより良く人と関わり合うことができています。 		
学校関係者 評価結果	<ul style="list-style-type: none"> 〇全体的に前向きな取り組みは評価できる。今後さらに児童や保護者と意識を共有化し、楽しい学校作りのための実効性のある体制作りを望む。 〇あいさつ運動は引き続き取り組んでいただきたい。保護者に協力してほしい部分もあるので、いかに家庭に周知するかが課題である。 〇地域の教育力が十分活用され、教職員の努力と相まって児童の学力向上や体力向上につながっている。 		
評価結果 に対する 学校の見解	<ul style="list-style-type: none"> 〇学力向上に向けて児童の実態を把握するとともに、地域・家庭の協力も得ながら、具体的な取り組みを行います。 〇引き続きあいさつ運動に取り組むとともに、一人一人に寄り添った「みんなが楽しい学校」を目指します。 		

学校経営 中期目標 達成状況	児童の基礎・基本の確実な習得のために、学校運営協議会を中心とした地域・保護者の協力による学習支援を行った。その結果、児童の学習意欲の向上、基礎学力の定着を図ることができた。さらに重点研究、メンターチームの授業研究を通して、授業力の向上に取り組んできた。今後さらに地域の教育力を生かしながら学力向上及び豊かな心の育成に取り組んでいきたい。
----------------------	--

平成26年度 学校運営協議会 活動報告

1 平成26年度の成果と課題

(1) 成 果

- 前、後期の学校評価の結果を踏まえた教育活動の改善が適切に行われたこと。
- 地域コーディネーターのリーダーシップに基づいて、「さくらの子応援隊」が様々な学習支援を展開できたこと。
- 全体研修会「さくらの会」の開催、及び、その活動について広く周知できたこと。

(2) 課 題

- 学校評価の効果的な活用や、より多くの地域の方々の意見を得るための方策について考えていくこと。
- 「さくらの子応援隊」による学習支援の在り方の工夫 や、組織化、見通しある運営について、継続的に改善していくこと。
- 参加者の増加を含めた「さくらの会」の充実や、周知徹底のよりよい手立てについて、引き続き考えていくこと。

2 平成27年度に向けた取り組み

- 学校評価の、質問内容の見直しなども踏まえながら、内容の充実を図るとともに、PTA活動を含めた地域の教育力の活用のしかたについて検討し、学校支援活動における「協働」体制を具現化していく。
- 算数学習サポートや算数補充、クラブ活動支援の、それぞれにおける効果的な指導の在り方などについて、教職員とともに研究、開発していく。
- 学援隊の活動における、青パト事業の取組や災害時の活用の仕方などについて、具体的に検討していく。
- 放課後の子ども支援全般の在り方について、共通理解を図ったり見通しをもったりし、前向きに検討していく。

3 平成26年度の学校運営協議会開催状況

- | | |
|--------------------------|------------------------|
| ○第1回 学校運営協議会 5月15日(木) | ○研修会「さくらの会」 11月15日(土) |
| (1) 平成26年度委員の紹介 | (1) 今年度の学校運営協議会の活動について |
| (2) 今年度の部会構成、及び活動内容等の計画 | (2) 今年度の学校運営方針等について |
| (3) 中期学校経営方針の提案 | (3) 今年度のPTA活動について |
| (4) 今年度のPTA活動について | (4) 児童会の活動報告 |
| (5) 今年度の協議会日程について | (5) 各部会の活動について |
| (6) 瀬谷さくら小学校 キッズについて | ○第4回 学校運営協議会 1月16日(金) |
| ○第2回 学校運営協議会 7月3日(木) | (1) 瀬谷さくら小学校 キッズについて |
| (1) 学校運営協議会規約確認 | (2) 各部会からの活動報告 |
| (2) 各部会の活動計画 | ○第5回 学校運営協議会 2月27日(金) |
| ○第3回 学校運営協議会 9月25日(木) | (1) 後期学校評価について |
| (1) 前期学校評価検討 | (2) 提言書について |
| (2) 全体研修会「さくらの会」のもち方について | (3) 報告書について |
| (3) 各部会からの活動報告 | (4) 次年度取組への見直し |
| | (5) 各部会からの活動報告 |

放課後キッズクラブスタート

学校運営協議会委員 諸橋 茂夫

3月1日、瀬谷さくら小学校放課後キッズクラブが開設されました。幼い子どもが巻き込まれる事件が目につく昨今、働く保護者にとって、とてもありがたい制度であると思います。それによって、留守宅に子どもを残す心配をすることなく、仕事に打ち込むことができるからです。また、無為にゲーム等で時間を潰さずに仲間と過ごすことは、子どもたちにとっても良いことだと思います。

す。キッズクラブでの楽しい出来事が、夕食時の会話に花を咲かせることを願っています。

なお、放課後キッズクラブの運営法人は、公益財団法人横浜ユースに決定し、旧はまっ子のチーフアシスタントの青木さんはじめ、スタッフ一同は、今まで通り勤務されています。



第5回 学習発表会

PTA副会長 齊藤 慶子

12月6日、学習発表会が行われました。今年度のスローガンは「みんなで協力 本領発揮 記憶に残る最高の舞台」。Aブロック1,4,6年、Bブロック2,3,5年と分かれての発表でした。

いろいろな方に教えてもらった事、自分たちで考えた事を、みんなで協力しながらまとめ、それを実現させるために、どの学年も一生懸命練習をしたのだと思える場面がたくさんありました。特に6年生のソーラン節は体育館が揺れ響き圧巻でした。

さまざまな事を経験することによって、子どもたちはまたひとつ成長したように思います。スローガンの通り、記憶に残る最高の舞台になったのではないのでしょうか。子どもたちの一生懸命な姿に大変感動いたしました。ご指導頂いた先生方に感謝いたします。



1年生の『おむすびころころりん』は、おじいさんがネズミの巣穴に落ちたおむすびがきっかけで、おじいさんや森の仲間たちとネズミたちが仲良くなる、

「おむすびころころりん」という童話を合唱付きで演じました。みんなが、とても1年生とは思えないような、きちんとしたセリフをこなし、合唱も素晴らしく、まるで、プロのミュージカルを見ているような錯覚を感じるほどで、子どもたちの成長を感じさせるいい寸劇でした。

4年生の『季節と生き物』は、四季ごとに成長変化する動物や植物の様子を、わかりやすく説明しました。元気がない子もいましたが、多分、全員がセリフを言っていたので、得手、不得手の子がいても仕方がないのかなと思いました。



6年生の『わたしたちのさくらソーラン〜風伝説』は、下瀬谷小と日向山小の歴史や、オリジナルダンス「さくらソーラン」が生まれるまでのいきさつを、振付の各部分が何を表現しているか、どう改良したかなど、詳しく説明してくれました。また、最後の、今年から着用できるようになった長袴纏を着て踊った、「さくらソーラン」は迫力満点の素晴らしいものでした。



2年生の『ともだちっていいな』は、

カエルとガマガエルの友情を描いたもので、手紙が届かずさびがっているガマガエルを思いやり、カエル自身が手紙を書き、それをカタツムリに託してガマガエルへ届ける物語。2年生も1年生に負けず元気で、お兄さんお姉さんぶりを発揮して、友情のありがたさ、大切さを表現しました。



3年生の『もしもコックさんだったら〜ダイズのふしぎ発見隊〜』は、枝豆が大豆の若い姿であることや、みんなが食べている豆腐や納豆、ゆば、みそ、しょうゆなどに加工されていることを紹介しました。また、もしもコックさんだったら、どんな料理を作るだろうかという事で、民族衣装とともに世界の大豆料理を紹介しました。



5年生の『カレーについての報告』は、大人も子どもも大好きなカレーの作り方から始めて、多くのスパイスを使うカレーが、ルーの登場で作りやすくなったことを紹介。カレー発祥の地とされるインド



では、はたしてルーはあるのだろうか、インスタントばやりの現代日本に疑問を投げかける場面も。そして、これで終わりかと思ったら、みんなで歌と演奏が始まり、なんと、季節の歌「第九」を聴かせてくれました。フィナーレにふさわしい演出は、さて、誰の発想？（西村）



青パトが新しくなりました

故・靱山金久さんに譲って頂き、7年間にわたって活躍してきた青パトを、この3月から更新することになりました。新車購入に当たっては、費用の約80%に当たる130万円弱を日本財団から補助していただきました。

2月18日には、左馬神社で交通安全の祈願をしていただき、3月18日にはパトロールの出発式が行われます。子どもたちや地域の安全を見守る、私たちのパートナーとして活躍が期待されます。（西村）

「青パトフォーラムin東京」に参加して

学援隊 下瀬谷団地 近藤 三夫

1 概要

日本財団主催、警察庁、東京都、警視庁後援による「青パトフォーラムin東京」が、平成27年2月21日に、東京港区の日本財団ビルで行われた。長野県から沖縄県までの参加者約170名が出席した。瀬谷さくら小学校からは、馬場隊長、野口事務局長、松田副校長、西村会計監査、近藤が参加した。このフォーラムの目的は青パトで活動を行っている各種防犯団体における、地域の様々な人々、行政の人々、警察関係の人々が協同して活動し、今後コミュニティーによる安心、安全な地域作りについて考えていく事である。

今回、紹介された団体は6団体で、その活動内容を知りたい方はフォーラムの冊子「青パトプラス～広げよう地域の輪～」をご覧ください。

2 発表方法

参加者は、まず、ポスターレビューとして、6団体が出展している各ブースのポスターを見て回り、概略の活動内容を把握する。その後、ポスターセッションとして、出展団体が同じ内容を、1回30分、3回説明するので、参加者は興味のある3つのブースを選んで説明を聞き、質疑を行う構成であった。

3 私が選んだポスターセッション

1) ご当地キャラ

成和校区自治連合会（東大阪市）

実施部隊は、地域、行政、警察等大所帯である。地域からは、各自治会や各クラブから、行政からは市会議員、警察関係は警察官の出身者が連携して活動している。地域の具体例では13自治会と10のクラブがあり、その代表者が協力委員会を設置している。青パトのスピーカーからは、校歌を流しているとの事。青パト運営費は市より支給されている。

2) まちづくり協議会（日南市）

宮崎県日南市は人口5万5千人（瀬谷区の人口の半分）で地域の78%が山林だそうです。山間部

では、空家も多くなり、高齢化も進んでいる状況。そんな中で9台の青パト車を配置し、全市的な“まちづくり”を目指し活動している。地域と行政が一体となり、チームワークの強化を図っている。青パトの経費は市から支給。



3) ブルーライン（厚木市）

夜間防犯パトロールを主体とする活動隊。メンバーは元青年会議所OBを中心に立ち上げた若手（40歳代）達。昼はそれぞれ働き、夜間、青パトで防犯パトロールを実施。参加企業の特徴も社会にPR、お互いに社会貢献を目指している団体。

4 所感

今回、全国版「青パトフォーラム」に参加して感じたことは、地域・地域の団体が目的としている活動目標は同じであるが、その運営方法はそれぞれ異なる活動であるものと感じた。その地域、団体に合致したコンセプトをもち、さらには独自な特徴をもった活動を将来に向けて継続していけるものであれば最高であると感じた。

（追記）

瀬谷さくら小学校学援隊は、松田先生と野口さんに発表していただきましたが、参加者は教育支援やアルミ缶回収などに驚き、多くの質問が飛びました。松田先生の歯切れのいい説明は大変好評で、セッション後の懇親会でも、大勢の人たちが集ってきて、意見交換を行いました。（西村）



学援隊活動に参加して

下瀬谷第三町内会 村松 相司

学援隊に入って6年になります。登下校時の見守りや、青パトによる学区内の防犯パトロール活動を行っています。

最近、児童に対する凶悪な事件が多発しておりますが、瀬谷さくら小学校では、このような事件や交通事故もなく、無事に過ごしてきました。これからも、児童たちの登下校の見守りを強化し、事件や事故に遭わないように注意していきたいと思っております。



算数サポートに参加して

下瀬谷自治会 早川 愛子

いつも緊張とワクワクが入り交じった思いで学校に向かいます。子どもたちにも私にもよい時間がありますようにと。3年生と4年生の教室にお手伝いに行きますが、一問でも多く解き終えたいと集中する子がいる反面、なかなか学習に取りかかれない子もいます。

最近、かけ算九九の練習のお手伝いに、2年生の教室に行きました。もちろん、しっかり覚えて、すらすらと言える子ばかりではありません。でも、みんな前向きです。一生懸命覚えようとします。素直に取り組む子どもたちと、本当に楽しい時間を過ごしました。

低学年で学ぶたし算、ひき算、九九は、これから算数や数学を解いていくための、基本の道具になります。切れ味のよい道具があれば、必ずよい仕事ができます。

2年生の教室に行って、この子どもたちが高学年になっても、この前向きな姿勢をなくさないように、完璧な九九の力を身に付けてもらいたいと思っておりました。



学援隊

瀬谷区 生き生き区民顕彰 受章

登下校時見守り、青パト巡回、教育支援と大活躍の瀬谷さくら小学校学援隊が、1月6日、瀬谷区の「生き生き区民顕彰」を受けました。

生き生き区民顕彰は、文化、スポーツ、福祉、保健、環境保全、街づくり、防犯・防災、学術、自治会・町内会運営などの分野で、区民に夢と希望を与え、元気づけてくれるような活動をしている人や団体に贈られるものです。（西村）

下瀬谷鍋を食べよう会



12月13日（土）、さくら小コミ・スクとPTAが中心になって、恒例の「下瀬谷鍋を食べよう会」が開かれました。

昨年は、荒天のため、家庭科室での開催になりましたが、今年は、寒い日ではありましたが天気に恵まれ、心のこもった温かい下瀬谷鍋に、みんなで舌鼓を打ちました。子どもたちはもちろん、コミ・スクの職員、保護者はじめ地域の方も含め100数十人が参加しました。また、学援隊もかまどの管理などのお手伝いを行いました。（西村）

【編集後記】

編集委員を務めて5年が経ちました。一番苦労するのは原稿集めです。皆さん忙しい人ばかりなので、無理は言えず、じっと我慢するばかりです。記事の内容や言葉遣い、誤字・脱字などのチェック、印刷は松田副校長先生にお願いしているのですが、ゲラの上りがいつも発行日ぎりぎりになり、迷惑をかけています。学校で一番忙しい先生が、文句ひとつ言わず、快く処理してくださるのに頭が下がります。

今後、誤字・脱字チェックや印刷は、自分たちでできるように、工程表と体制を整えていきたいと思っています。（西村）

学校運営協議会だより
平成26年度・第3号

平成27年3月18日
横浜市立瀬谷さくら小学校
学校運営協議会

発行責任者

会長 網代宗四郎

編集

広報・学校評価部会